

●先日この梅ノ木の「ことぶき会」(敬老会)の主催で駅前の公園で私立伊丹高校のジャズバンドの演奏会が開かれ、教会を控え室として提供いたしました。とても素敵なお演奏会となりました。この地域に住む方々に何とか元気や喜びを与えようと願いつつ活動をしてもらえる先輩方との出会いには励ましを与えられます。

●「少年よ、大志を抱け(Boys, be ambitious)」という言葉は札幌農学校初代教頭であったウィリアム・スミス・クラークの言葉として有名です。そしてこの「少年よ、大志を抱け」という言葉には後に続く言葉があったのだとされています。北海道大学の図書館が公表した資料によれば、クラーク博士は、「Boys, be ambitious like this old man」と言ったようです。当時、50歳を過ぎたクラーク博士にしてみれば「こんなオッサンも頑張っているんだからオマエらも頑張れ！」という激励の言葉だったのでしょうか。また、「大志を抱く」とは、神さまの意志に応じて生きるという事であったことを考えると、どんな年齢であっても、神様を信じて生きようとする時に、生き生きと生きられるのだというメッセージが込められていたのだと受け止められます。

●今日の聖書の言葉を記したパウロは不自由を強いられた牢獄の中から「私は喜んでい」と手紙を書き送り、同じく虐げられているフィリピの教会の人々に、「ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい」(27節)と述べています。「福音」とは、「喜ばしい知らせ」という意味であり、それは、この世がどんなに暗く思えようが、神は生きておられるという希望です。その「福音」を信じ、互いに励まし合って生きなさい、とパウロは励ましているのです。

●パウロはまた「兄弟たち、私の身に起こった事が、かえって福音の前身に役立ったと知ってほしい。」と記します。かつてパウロはこのフィリピの町で牢獄に入れられました。しかしその時に、神に讃美歌を歌い祈りを捧げている姿を通してその牢獄の看守と家族が洗礼を受けてクリスチャンとなったと使徒言行録は伝えています。

●私たちは若い時代、健康な体をもって神様の栄光を現すことも出来れば、老いや様々な病や弱りを覚える中であっても神様の栄光を現すことも出来るのです。

私たちは生きている限り、病や老い、社会的環境によって時に身も心も萎縮させられてしまうような状況におかれます。しかし、その只中で希望を持って生き、互いに励まし合おうとする関係の中に、神さまの力が生き生きと働き、次の世代にも希望が与えられていくことを信じ、これからもこの地域の方々と共に励んでいきたい。そう願います。